

琵琶湖保全再生計画の改定に係る主なポイントについて（案）

資料 2 - 3

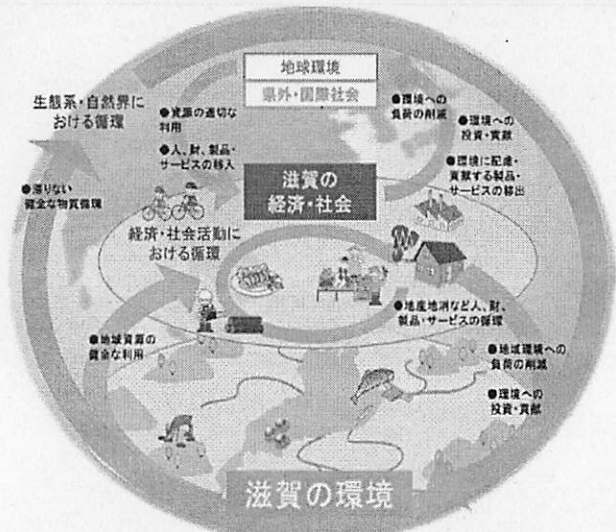
○計画期間

・令和3年度（2021年度）～令和7年度（2025年度）の5年間

○関連計画の改定状況の反映

・国の第五次環境基本計画（平成30年策定）で示された「**地域循環共生圏**」や第五次滋賀県環境総合計画（平成31年策定）の目標である「**環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築**」の視点を盛り込む。

→生態系から得られる恵みを、経済、社会の中での活用につなげ、健全な循環を作るという視点に立った「**新たな琵琶湖政策**」の展開



環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環

○新たな課題への対応の位置付け

・**プラスチックごみや気候変動に伴う未経験の水質現象**（全層循環の不全、底層DOの低下、豪雨・少雨や高温等による南湖における植物プランクトンの特異的な増殖等）など**琵琶湖への影響が懸念される新たな課題への対応を位置付け**。
→プラスチックごみ削減のための広報・啓発、琵琶湖のモニタリングの効果的な実施、窒素やりんを削減すべき対象として捉えるだけでなく、在来魚介類につながる琵琶湖の食物連鎖を支える植物プランクトンに必要な物質として捉え、良好な水質と豊かな生態系が両立する水質管理手法の構築など

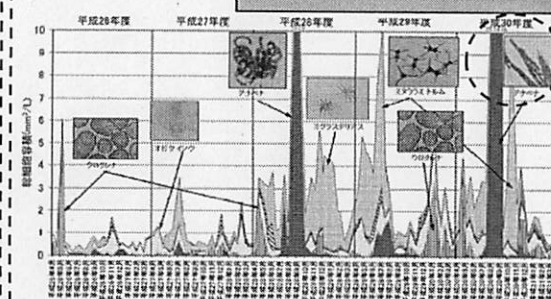
プラスチックごみの状況



	重量(kg)	重量(%)	体積(L)	体積(%)
全体	322.17	100.0%	2,231	100.0%
プラスチックごみ	170.41	52.9%	1,662	74.5%
袋類	74.43	23.1%	530	23.8%
農業系プラスチック(あぜ敷)	14.68	4.6%	165	7.4%
プラスチックごみ	32.95	10.2%	405	18.2%
内訳				
トレイ・容器類	4.24	1.3%	180	8.1%
ペットボトル	1.02	0.3%	45	2.0%
その他プラスチック	43.09	13.4%	337	15.1%
その他	151.76	47.1%	569	25.5%

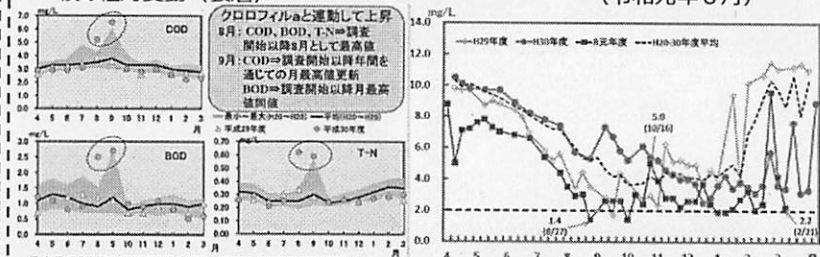
琵琶湖のプラスチックごみ実態把握調査
(令和元年6月赤野井湾)

気候変動による影響



南湖唐崎沖中央における植物プランクトンの総細胞容積の経月変動(表層)

南湖で大增殖したアハバ・アフィス(上図)と一面緑に染まった南湖(下図)(令和元年8月)



南湖主要水質項目の経月変動(表層平均値) 北湖代表点(今津沖中央)における底層DOの経月変動

○新たな協働の枠組の位置付け

・マザーレイク21計画（平成11年度～令和2年度）の次の展開としての「**(仮称)マザーレイクフレームワーク**」を多様な主体との協働の手法の一つとして位置付け

○その他検討事項

- ・計画策定時に議論になった事項（農業濁水など）や環境分野における国レベルでの新しい考え方の反映
- ・計画のフォローアップ結果を踏まえた反映
- ・その他、計画策定後の各施策を取り巻く状況の変化を踏まえた反映（森林経営管理法の施行、オーガニック農業の推進、「(仮称) 滋賀県持続性の高い農業生産活動の促進に関する条例」の検討、「やまの健康」プロジェクトの推進、「滋賀の農林水産業」の日本農業遺産への認定と世界農業遺産認定に向けたFAOへの申請の承認、ビワイチのナショナルサイクルルート指定など）